

新生



48号

2018.3.25

〒164-0003 中野区東中野一―四―二三
電話 FAX 〇三―三三六九―六四八八
Eメール shinsei1926day@yahoo.co.jp

日本キリスト教団

新生教会

『呼びかける声』

使徒言行録九章一―一九a節

牧師 菅原 力

パウロはユダヤ教の熱心な信仰者で、律法を学び守り、律法に生きることに、誰にも引けを取らない者として歩んできました。その

彼にとつて、キリスト教徒たちは、イエスというまちがったものを神の子として信じる者たちで、神を冒瀆し汚す者に他なりませんでした。彼はキリスト教徒を攻撃しました。それはキリスト者が憎いとか、嫌いだという理由からではなく、神にたいする熱心からでした。

そのパウロに回心ということが起こるので

す。 どうしてそんなことが起こるのか。彼は誰かに意見され、忠告を受け、よくよく考えるうちに、自分のしたことはまちがっていたと自覚し、悔い改めた、というわけではありません。

は悪いことをしている自覚はなかった。それどころか、善いことをしているという自覚に充ちていた。それなのに突然回心です。

「突然、天からの光が彼の周りを照らした。パウロは地に倒れ、『サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか。』と呼びかける声を聞いた。

『王よ、あなたはどなたですか。』というとき、答えがあった。『わたしはあなたが迫害しているイエスである。起きて町に入れ。そうすればあなたのなすべきことが知らされる。』これがパウロが回心していくドラマの始まりです。ここからわかるのは、パウロの内面的な事情や、心の動きなど、何一つ、回心のきっかけになつていないということ。ただ、呼びかける声があったと聖書は語っている。その呼びかける声、

存在にパウロは出会った、それだけです。不思議なドラマ(事件)です。パウロは呼びかける声によって、キリストの十字架の愛とか、その恵みが瞬時にわかるといふ経験をしたわけではない。しかし、キリストの言葉が自分の中に入った。そしてその言葉は自分の中からどかない。サウル、サウル、と自分の名を呼びかけてくるキリストの言葉と存在が自分の中にいつづける、ということ。その言葉に驚掴みにされる。回心ということの根っこのところにあるドラマとは、こういうことです。その人の中に、これまで自分が聞いてきたのとは違う声が増えてくるのです。それはパウロの意思や、パウロの考えとは違う。感情とも違う。突然光が彼を照らし出したように、突然射抜いてくるのです。おそらく洗礼へと導かれた者は皆、そういう声に出会っているのです。キリストの声、神の声です。キリストの存在がわたしの前に立っている、そしてわたしに呼びかけてくるのです。それまでのその人の歩みがどのようなものであれ、何を信じ、何に熱心で、何に取り組んできたにせよ、キリストの言葉を聞いて、その言葉に向かつて歩んでいくことを促す。呼びかける声に向かい合い、その声に向かつて歩んでいく歩みが始まっていく、パウロはそのような経験をしたのです。